台大日本語文研究第 47 期
2024 年 06 月，頁 41-67
2024-03-04 收稿，2024-05-15 通過刊登
DOI: 10.6183/NTUJP. 202406_(47).0003

日語外來語サ變動詞化
—透過辭典等語例的考察—

林慧君*

摘要

本論文分析考察的對象為日語可以接上サ變動詞「する」的外來語動名詞（例如：「スピーチする」「アルバイトをする」等）。首先，透過外來語辭典和詞彙資料的收集調查，了解掌握日語有哪些外來語動名詞。爾後，透過電子語料庫的實際使用情況來驗證、考察外來語動名詞是否實際可當作サ變動詞來使用？並釐清外來語動名詞的性質及其サ變動詞化的本質等問題。

透過辭典及詞彙資料中的外來語動名詞調查，先是釐清了外來語動名詞中有半數以上是真正的動名詞，即實際上同時具有「～する」和「～をする」兩種形式用法。整體而言，比起「～をする」形式用法，「～する」形式用法的外來語動名詞要來得多，亦即外來語動名詞動詞性質較為顯著；其次，抽出具某種程度的使用頻率且實際可成為サ變動詞的外來語動名詞，將其視為基本外來語動名詞詞彙；此外，闡明了外來動名詞的サ變動詞化與該語詞做為日語詞彙的穩定度及普及度之間的關聯性。

關鍵詞：外來語、動名詞、サ變動詞、（詞彙）穩定度、普及度

臺大學術期刊資料庫

* 國立臺灣大學日本語文學系教授

Regarding the Verbalization of Japanese Loanwords into Sa-hen Verbs: Through Studying Words from Dictionaries

LIN, Hui-jun*

Abstract

This paper analyzes gerunds in Japanese loanwords that can be attached to the sa-hen verbs “する(suru)”, such as "スピーチする" (to give a speech) or "アルバイトをする" (to do part-time job). Firstly, through investigations involving loanwords dictionary and vocabulary data, we identify what loanword gerunds exist in Japanese. Subsequently, we examine and verify whether these loanword gerunds are actually used as sa-hen verbs based on their usage in electronic corpora. Furthermore, we analyze the nature of loanword gerunds and the essence of their verbalization with the sa-hen verbs.

As a result of the investigation in this paper, it was confirmed that overall, the form of 'doing ～' is more prevalent than the form of 'to do ～', showing a notable tendency towards verbal characteristics. Additionally, we were able to identify basic loanword-derived verbal nouns that are frequently used and can be conjugated as 'suru' verbs.

Key words: Loanwords, Gerund, Sa-hen Verbs, Retention Degree of Vocabulary, Popularity

臺大學術期刊資料庫

* Professor, Department of Japanese Language and Literature, National Taiwan University

日本語外来語のサ変動詞化について
―辞典などの語例の考察を通して―

林慧君*

要旨

本稿では、サ変動詞「する」がつく外来語動名詞（例：「スピーチする」「アルバイトをする」など）に焦点を当て、まず、外来語の辞典や語彙資料から語例を収集し、日本語にどのような外来語動名詞があるのかを把握する。次に、外来語動名詞が実際にサ変動詞として働くかどうかを、言語資料コーパスにおける使用実態の調査を通して検証する。その後、外来語動名詞の性質とサ変動詞化の本質などの問題を解明する。

辞典や語彙資料における外来語動名詞の調査を通して、外来語動名詞の半数以上は正真正銘の動名詞、即ち「～する」と「～をする」という二つの形態用法をともに有するが、全体としては、「～をする」形態用法よりも「～する」形態用法の方が多く、即ち、動詞性寄りの性質が顕著であることを確認できた。また、使用度が高く、尚且つサ変動詞化のできる語を抽出でき、これらを基本語的な外来語動名詞と判断した。他に、外来語動名詞のサ変動詞化と日本語としての定着度、普及度との関係も明らかできた。

キーワード：外来語、動名詞、サ変動詞、定着度、普及度

臺大學術期刊資料庫

* 国立台湾大学日本語日本文学科教授

日本語外来語のサ変動詞化について
—辞典などの語例の考察を通して—

林慧君

一、はじめに

日本には、西洋と直接接触するようになった室町末期から外国語が入ったが、最初はポルトガル語が多かったことは周知のことである。江戸時代にはオランダ語なども取り入れられたが、明治時代になると、その多くは英語からの外来語に占められるようになった。ところが、これらの外国語の受容を、品詞の面から考えると、先行研究に 、

> 外来語の多くは、その意味の如何にかかわらず、具体的なものも抽象的なことがらも、形態上の制約のゆるい日本語の名詞あるいは名詞のなかまとしての文法的な範疇化をうける。[1]

と述べられているように、最初は名詞形として借用され、その後、日本語における漢語と同じく、様々な語形変換の操作によってはじめて他の品詞としても用いられるようになるのが一般的である。例えば、「フリー」(“free”) はそのままでは名詞性をもった語として日本語に借用され、「フリーになる」「フリーのカメラマン」のように使われるが、「フリーな立場」などのように更に活用語尾をつけ、形容詞としても使用されるのである。他に、動詞に変換される外来語もあるが、例えば「スタート」(“start”) は、最初「スタートが早い」というように名詞として日本語に借用されたが、名詞形の後にサ変動詞をつけて「スタートする」という動詞形が用いられるようになった。

本稿では、この、サ変動詞「する」がつく外来語（例：「スピーチする」「アルバイトをする」など）に焦点を当て、分析を行うことに

臺大學術期刊資料庫

[1] （村木 1982：223-224）を参照。他に、宮地（1977）、松井（1982）、川合（1984）なども同じようなことが言及されている。

する。「する」をつけて動詞化することのできる名詞は、動名詞と呼ばれ、名詞の特徴と動詞の特徴を同時に持っている[2]。

本稿では、まず日本語にどのような外来語動名詞があるかについて外来語辞典と語彙資料集から語例を収集、確認する。そして、これら辞典や語彙資料集に収録されている外来語動名詞が実際にサ変動詞として働いているかどうかを、言語資料コーパス上の使用実態を通して検証する。外来語のサ変動詞化の問題を考えるに当たって先にどのような外来語サ変動詞があるのかを把握しておく必要があると考えるからである。故に、今回は辞典や語彙資料集における外来語動名詞の調査、分析を主な目標とする。[3]

二、先行研究について

本研究は外来語サ変動詞化に関する問題を扱うもので、その語例の定着などに関する先行研究としては、主に澤田（1993）、南（2020）、小林（2004）を挙げることができる。

澤田（1993）では、外来語動詞化とその外国語原語との関係についての仮説が立てられたが、原語において動詞の用法があるものは、まず日本語の名詞として外来語になった後、「～する」をつけて動詞化するのに対し、一方、原語で名詞の意味しか持たない語には「する」をつけられず、動詞化することはないとされた。なお、同論文では日本語教育の観点に基づいて、二つの資料[4]から初中級レベルの基本外来語がまとめられている。本稿では、この澤田の論文における基本外来語リスト中の外来語動詞を調査対象とし、また現代の外来語基本語彙の選定にも参考させてもらった。

---

2 小林（2004:12-13）を参照。

3 外来語サ変動詞の構文的問題などは別の機会に譲ることにする。

4 一つは国立国語研究所の『日本語教育のための基本語彙調査』における「基本語二千」及び「基本語六千」という二つの水準によって抽出された基本語彙のリストである。もう一つは、玉村文郎（1991）「日本語における外来要素と外来語」（『日本語教育』74 号）の末尾の参考資料掲載の基本外来語（170 語）である。

次に、南（2020）は主に日本語母語話者の外来語サ変動詞に対する許容状況を調査したものである。外来語サ変動詞化は日本語に借用された際の「意味の縮小・特殊化」と関わりがあるが、原語から意味の特殊化が起こっている語は外来語サ変動詞化の許容度が高くなるとしている。

上述した二つの先行研究はいずれも外来語の原語の意味との関連の観点から、日本語の外来語サ変動詞の問題を捉えたものである。動詞化の問題を扱うに当たり、確かに語彙的意味と関わりも考慮すべきと考えられるが、しかし、外来語の動詞化に原語の意味との関連性以外に他の要因はないのかも更に確認する必要があるように思われる。

小林（2004）は漢語動名詞に関する名高い論著であるが、当論文では、まず、動名詞の定義が「動名詞とは、いわゆる「サ変になり得る名詞」」と定められており、本稿もその定義に従う。なお、小林氏は、「～する」と「～をする」の構文的な違いは、外項をもつかどうかと関連があるともしている。例えば、「到着する」「流行する」二例は外項をもたぬ故、ヲ格を与えることができず、「～をする」構文が使えない動名詞としている。小林の研究は漢語サ変動詞を対象にしたものであり、外来語のサ変動詞については論じられていない。外来語動名詞におけるサ変動詞化と外項名詞の有無との関係は本稿での論述範囲外ではあるが、差し当たり動名詞の観点などを参考にする。

三、調査方法

冒頭で述べたように、日本語における外国語は、まずは名詞性をもった語として取り入れられ、その後、日本語の語形変換の操作によって品詞転換を経て、別の品詞に転成される語も現れる。本稿では語彙資料から収集した、「する」がつく外来語のことをとりあえず「外来語動名詞」と称することにする。

臺大學術期刊資料庫

外来語動名詞を網羅的に収集するために、下に挙げた四つの辞書及び語彙資料から外来語動名詞を抽出する。

1.『コンサイスカタカナ語辞典　第5版』三省堂（2020）
（以下〔辞典〕と略す）

2.『現代雑誌200万字言語調査語彙表』国立国語研究所
（公開版　（ver.1.0）　2006.8.11）
（以下〔200万字〕と略す）

3.「日本語教育のための基本外来語について」（澤田（1993））
（以下〔澤田〕と略す）

4.「付表　カタカナ語基本語彙550語」（井上（2004））
（以下〔550語〕と略す）

1の〔辞典〕では、動詞としても使われる外来語には見出し語に〜する記号がつけてあるので、ここからは見出し語に〜する記号がついている語のみを抽出した。

3及び4の先行研究論文内には外来語動名詞が掲載されている。3の〔澤田〕からは、楳垣実の『増補　外来語辞典』、『言泉』、『イミダス1993年版付録　外来語・略語辞典』の三冊の辞書から選ばられた、「する」を付けて動詞化する外来語サ変動詞のリスト（112語）[5]と、当論文の3.6に挙げられている「名詞として使われるだけではなく「する」をつけて動詞化される外来語」（33語）[6]を、併せて本稿の調査対象に取り入れた。

4の井上（2004）ではカタカナ語（外来語）の基本語彙選定のための語彙特性とその選定基準が検討されたが、その基本語彙の特性として、語の使用度・語使用の安定性・単純語のもつ造語力という三つの要因が基本的だと述べられている。そして、三つの基本語彙選定の段階を経た、「カタカナ語基本語彙550語」が選定されているが、本稿では、この井上（2004）の付表「カタカナ語基本語彙550

臺大學術期刊資料庫

5　澤田（1993：234-235）。
6　澤田（1993：231）。

語」も調査考察に使用する。また、それを、現代の外来語基本語彙の選定にも参考にさせてもらった。

2 の語彙資料〔200 万字〕からは、語種が外来語、品詞が動詞の語だけを抽出し、結果として 117 語を得た。しかし、この 117 語のうち、〔辞典〕にも出ているのは僅か「コール」と「プレー」2 語しかない[7]。また、現代のネット一般辞書 goo をもってその 117 語を調べてみると、僅か 10 語[8]しか収録されていない。辞書に載っている語は定着される語だと考えられるため、本稿では goo 辞書に登録されている外来語は日本語として定着していると判断する。というわけで、〔200 万字〕に収録されている外来語動名詞は全体として日本語としての定着度が低いと言えよう。そのような語例として、「アカンパーニュ」「ステップト」「ビロング」「ファインド」などが挙げられる。ところが、言語資料コーパスをもって検証してみると、上述した、辞書には登録されていない語が多い、この〔200 万字〕の語彙の中には実際に動詞用法が見られたのもあり、つまり、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）か『ヨミダス歴史館』に「～する」か「～をする」の使用実例はあった。併せて 27 例あるが、この 27 例も今回の調査対象に入れることにした。

というわけで、本稿では主に 1 の〔辞典〕、3 の〔澤田〕と 4 の〔550 語〕という三つの語彙資料からピックアップした外来語動名詞に、前述した 2 の〔200 万字〕の語（27 例）も併せると、全部で 613 例に上る。

次のステップとして、収集した外来語動名詞が実際にサ変動詞として用いられているかどうかを、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）及び『ヨミダス歴史館』をもって確認する。

---

7 因みに、抽出した 117 語のうち、〔550 語〕にも出ているのは「シーン」と「プレー」二語のみである。「シーン」はサ変動名詞ではないため、調査用例に入れないことにした。

8 〔辞典〕にも出ている「コール」と「プレー」の他に、「カムバック」「ミート」「アジャスト」「エンジョイ」「オミット」「ギブ」「ムーブ」「フォール」が挙げられる。

臺大學術期刊資料庫

以下、サ変動詞の出現実例に基づき、外来語動名詞の語彙性質やサ変動詞化の問題などを検討していく。

四、調査結果及び分析考察

本節では前節の調査方法に基づいて得られた外来語動名詞の語例について、諸資料における出現状況によってその性質を分析する。次に、BCCWJ と『ヨミダス歴史館』をもって、諸資料に収載されている外来語動名詞が果たして「～する」また「～をする」のサ変動詞用法を有するかどうか、即ち実際のサ変動詞化の状況を確認する。

（一）資料出現の状況から

諸資料に収載されている外来語動名詞の出現状況をまとめて整理すると、表一のようである。

表一　資料出現の状況による外来語動名詞のまとめ

資料出現の数	資料名	語例数	合計
三	辞典・澤田・550語	41	41(7%)
二	辞典・澤田	114	138(23%)
	辞典・550語	15	
	澤田・550語	9	
一	辞典のみ	362	434(71%)
	澤田のみ	45	
	200万字のみ	27	

まず、〔辞典〕〔澤田〕〔550 語〕の三資料ともに出現している外来語動名詞は全部で 41 例あり、全体の 7 %に過ぎないことがわかる。下の例である。

「アップ」「アナウンス」「アピール」「アルバイト」
「イメージ」「オーダー」「オープン」「ガード」「カーブ」
「カット」「カバー」「キック」「キャンプ」「コピー」
「コントロール」「サービス」「サイン」「シャンプー」
「シュート」「スタート」「ストップ」「セット」「ダウン」

臺大學術期刊資料庫

「タイプ」「チェック」「チャレンジ」「テスト」
「デビュー」「トライ」「ドライブ」「ドロップアウト」
「ヒット」「プラス」「プリント」「プログラム」
「ボーリング」「マスター」「マッサージ」「マッチ」
「メモ」「ロック」

外来語の出現資料数が多いほど、その語が定着していると考えられる故、これらの語は今回の調査に用いられた主な三資料にともに出ているため、日本語としての定着度が高いと判断できよう。また、日本語教育観点に基づいた二つの基本語彙資料(〔澤田〕・〔550 語〕)にも出ていること、〔辞典〕にも収録されていることと、三十年前から現在に至るまで続けて用いられていることを考え合わせると、これらの語は定着度が高く、基本語的な外来語動名詞と言えよう。因みに、この三資料出現の外来語動名詞 41 語はいずれも現代のネット一般辞書 goo にも収録されており、現代でもかなりポピュラーな外来語動名詞だと思われる。

次は、二種類の資料だけに出現している外来語動名詞の場合であるが、〔辞典〕と〔200 万字〕に出現している「コール」以外の語例は、殆どが〔澤田〕または〔550 語〕の基本語彙資料に出ている外来語動名詞である。しかも、多くは〔辞典〕にも収録されているので、これら二資料だけに出現した語も、前の三資料出現の語とさほど変わりはないものと考えることができる。これらは全部で 138 例あり、全体の 1/4 近くの割合を占める。なお、この二資料だけに出現した外来語動名詞を、ネット一般辞書 goo の収録状況を調べてみると、138 語のうち 130 語（94%）も確認でき、即ち、これらも現代では定着度の高い基本語的な外来語動名詞だと考えられよう。

因みに、〔澤田〕と〔550 語〕とともに出現した外来語動名詞は 9 例あるが、その詳細を調べてみると、そのうちの 8 例(「クリーニング」「ゲーム」「ストライキ」「ダンス」「トレーニング」「ハイキング」「ピクニック」「ランニング」)は、〔辞典〕に収録されていないわけ

臺大學術期刊資料庫

ではなく、ただ〜する記号がつけられていないだけであり、実際にサ変動詞用法があるかどうかの確認が必要である。

なお、一種類の資料のみに見られる語は全体の約 7 割あり、最も多い。そのうち、〔辞典〕にのみ収録されているものは、一種類のみ出現の外来語動名詞の 8 割以上も占めている。これら〔辞典〕にだけ見られる語について、ネット一般辞書 goo の収録状況を調査したところ、362 語のうち、179 語（49%）が登録されていることを確認できた。そのことは、見方を変えると、〔辞典〕のみの収録語の約半数は現代の一般辞書には収録されていないことになる。つまり、上に見たようなポピュラーな外来語動名詞ではないと考えられる。前の三種類と二種類出現の外来語動名詞と比べると、それほど定着せず、日本語としての定着度が低いと考えられよう。

とは言うものの、このタイプの外来語動名詞の中には、例えば、

「アイドリング」「インストール」「エントリー」
「オーガナイズ」「キャッチボール」「コンファーム」
「スタンバイ」「テレワーク」「ハグ」「フィードバック」
「リフォーム」「インスパイア—」「オートチャージ」
「サスペンド」「シャッフル」「ドラムロール」
「ネゴシエート」「ノミネート」…

のように、現代の言語生活で普通に用いられている語もある。これらは 30 年前はまだそれほど普及されていなく、当時はまだ一般的に使用される外来語動名詞ではなかったために、先行研究などに挙げられることがなかったと考えるのが妥当であろう。一方、それに対し、「アップ-コンバート」「インスパイア—」「セーフサーチ」「デジタイズ」「ドラムロール」「ミスティファイ」「リブランディング」などのような、現在でも一般的には用いられていない、新語、もしくは専門用語と思しき語も多数拾われた。この〔辞典〕にのみ出現している外来語動名詞は様々なタイプが含まれていると言えよう。

次に、〔澤田〕のみに見られる外来語動名詞は 45 例あるが、そのうちの 40 例は、〔辞典〕に収録されていないわけではなく、ただ

臺大學術期刊資料庫

〜する記号がつけられていないのである。[9] これらにサ変動詞用法があるかどうかについては、コーパス資料などを通しての確認が待たれる。また、これら〔澤田〕にのみ出現の外来語動名詞をネット一般辞書 goo で調べてみたところ、45 例のうち、4 例（「タッチオフ」「デートデザイン」「ハミングパラフレーズ」「プレゼントマーク」）だけは goo 辞書には登録されていないことがわかった。これらを除く大多数の〔澤田〕にのみ出現した外来語動名詞は現在一般的に使用されているものであることが明らかになった。

一種類だけ出現の外来語動名詞の最後のグループは〔200 万字〕にのみ見られた語（27 例）であるが、これらは、前述した如く、BCCWJ と『ヨミダス歴史館』をもって確認すると、「〜する」か「〜をする」の形態用法をもって現れており、そのため今回の調査対象にした。ところが、これらが〔辞典〕と〔澤田〕と〔550 語〕には収録されていないことを考え合わせると、日本語としての定着度が低いものと見られよう。[10] それは、これらの外来語動名詞が、現代の一般辞書登録の有無の調査によって現在一般的にはあまり使われていないことからも確認できる。

なお、語彙の定着度が語の普及度とも関わると考えられるため、次は言語コーパス（BCCWJ）における使用度を語の普及度に当て考察を行う。

9 〔辞典〕には収録されていないものの、〔澤田〕のみに見られる語は、「システム化」「タッチオフ」「デートデザイン」「ハミングパラフレーズ」「プレゼントマーク」の 5 例だけでる。

10 この、〔200 万字〕にのみ見られた 27 例の外来語動名詞の、ネット一般辞書 goo への登録状況を調べてみると、収録された語（10 例）より収録されていない語（17 例）が多い。これよりも、〔200 万字〕にのみ見られた外来語動名詞は現代言語使用における定着度は積極的には評価できないと言えよう。

臺大圖書館典藏資料庫

収集した外来語動名詞を対象に、三資料及び二資料[11]、そして一資料のみ出現の語ごとに分けて、言語コーパス（BCCWJ）をもってその使用度を確認してみる。調査結果は表二のようになる。[12]

表二　資料数出現ごとによるBCCWJでの使用度

BCCWJにおける使用度の桁数	四桁	三桁	二桁	一桁	0
三資料及び二資料出現の語	5	69	65	22	18
一資料出現の語	1	18	77	91	220

まず、三資料及び二資料に出現した、併せて179語の、BCCWJにおける使用度を調べてみると、使用度二桁以上の語（139例）は8割近くも占めている。上位5位の語は「アップ」(3284)[13]、「チェック」（2919)、「スタート」（1746)、「キス」（1176)、「カット」（1021）であり、いずれも四桁の使用度を示しており、かなり使用度の高い動名詞である。そして、使用度三桁の語は69例、使用度二桁の語は65例（うち、使用度50から99までのは26例）あるが、BCCWJでの使用度50以上の外来語動名詞は合計ちょうど100語（56%）であり、これらはよく用いられている基本語的な外来語動名詞と判断してよかろう。他に、使用度一桁の語は22例、頻度0[14]のは18例あった。

一方、一資料のみ出現の外来語動名詞は、そのBCCWJにおける使用度を調べてみると、一位は「インストール」であり、なんと使用度が1170とヒットできた。電子化した現代社会の反映だと見られる。次に、三桁の使用度を有する語は18あり、

[11] 前に、三資料と二資料にそれぞれ出現した語例は大体として語の定着度が高い基本語的な外来語動名詞だと確認できたので、語の定着度と普及度との関わりの調査においては三資料及び二資料出現の外来語動名詞を一括りにして一つのグループにするわけである。

[12] BCCWJでの使用度を調査する対象は、〔辞典〕〔澤田〕〔550語〕の三種類から採集した語例であり、計586語ある。〔200万字〕のみ出現した27例は入れないことにしたのを断っておく。

[13] （）の数字はBCCWJにおける使用度数。

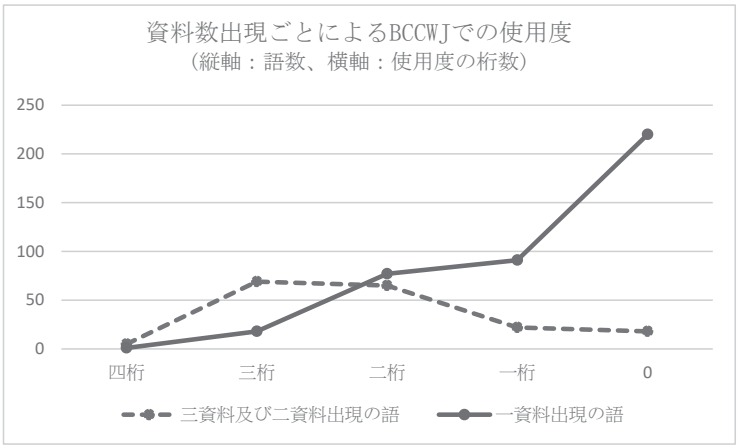
[14] これらは、BCCWJには出ていないが、『ヨミダス歴史館』に見られるがため、ヒットされたわけである。

電子版紀要刊資料庫

「セックス」「エッチ」「キャンセル」「ゲット」「リンク」
「アプローチ」「オーケー」「ミックス」「レンタル[15]」
「リフレッシュ」「ピックアップ」「チェンジ」「ブレーク」
「スルー」「エントリー」「プロデュース」「リフォーム」
「フィードバック」

がそれである。これらの語は〔辞典〕という資料にだけ出ているが、30年前はまだそれほど普及されなかったものの、現在の社会ではかなり頻繁に用いられているものであることが見て取れる。使用度二桁の語77例のうち、頻度50～99のは14例ある。これを三桁のもの及び一位四桁の「インストール」1例と合わせると、BCCWJでの使用度50以上の外来語動名詞は併せて33例（8%）になるが、これらもよく用いられている基本語的な外来語動名詞と認めてよかろう。なお、使用度一桁のは91例あり、BCCWJでの使用度が0の語は220例あることもわかった。

ここで前掲した表二をグラフで分かりやすく示し直すと、次のようになる。



15 「レンタル」は、〔辞典〕に見出し語として載ってはいるが、～する記号はつけられていない。しかし、BCCWJでは「～する」と「～をする」の形態用法がいずれもヒットされたので、他の一資料出現の使用度三桁の語と同じく扱うことにした。

臺大學術典藏資料庫

上のグラフから、三資料及び二資料出現の外来語動名詞は使用度が三桁から二桁、一桁、そして0へいくに従い、語例数が少なくなっていくのに対し、一資料出現の外来語動名詞は、使用度が四桁から三桁、二桁、一桁、そして0へ行くに従い、逆に語例数がどんどん増えいくことがわかる。このグラフからは、一資料のみに出現する外来語動名詞の場合は、BCCWJでの使用度と語例数が反比例していることが特徴的と言える。

本節では、〔辞典〕や語彙資料に収載されている外来語動名詞の出現状況の調査、またBCCWJでの使用度の分析を通して、資料出現数が多い場合はその語の普及度も高いのに対して、一資料のみ出現の外来語動名詞の場合、使用度50以上の少数例以外のほとんどは使用度が低く、あまり使われていなく、即ち、語の普及度も低いという傾向を確認することができた。つまり、外来語動名詞の、日本語としての定着度とその普及度との関わりを明らかにした。なお、BCCWJでの使用度の調査を通して、三資料及び二資料出現、そして一資料のみ出現の外来語動名詞から、そのBCCWJでの使用度が50以上の語を、基本語的な外来語動名詞として133語[16]抽出できた。

（二） サ変動詞化の状況から

本節では『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）及び『ヨミダス歴史館』という二つの電子コーパスを用いて、四の（一）で収集した613例の外来語動名詞について、サ変動詞化用法の実例があるかどうかを確認する。基本的には、そのうちの一つのコーパスで「～する」または「～をする」の形態用法が見付かると、サ変動詞化の用法があると考える。

ここでもう一度動名詞の概念について確かめるが、小林（2004）では、「動名詞とは、いわゆる「サ変になり得る名詞」のこと」と述べられており、動名詞は動詞の性格と名詞の性格の両方を有すると

臺大學術期刊資料庫

16 本稿の最後に、抽出したBCCWJでの使用度50以上の基本語的な外来語動名詞133語を付表の語彙リストに付けておいた。

される[17]。一方、川合（1984）では、「...「を」の存否は意味を変えないし、動詞として認定してもいいようなものであるが、矢張り格助詞により、名詞性が形式的に強調されたものとして、今は動詞とは認定しない。」と論じられている。例えば、「アルバイトをする」は動詞と認定せず、「スナックでアルバイトしていた」は動詞とする[18]が、本稿では、小林（2004）に基づき、動名詞には動詞も名詞も両方の性格を有するという立場に基づき論じる。

本稿で収集した 613 例の外来語動名詞については、実際の言語資料コーパスにおけるサ変動詞化用法の有無によって下の表三のように、A、B、C、D の四種類にまとめる。

表三　サ変動詞化の状況による外来語動名詞のまとめ

	A		B		C		D	
	～する	～をする	～する	～をする	～する	～をする	～する	～をする
資料の数	○	○	○	×	×	×	×	○
三	40		1		0		0	
二	113		20		5		0	
一	161		138		120		15	
合計	314 (51%)		159(26%)		125 (20%)		15 (2%)	

まず、数から見ると、「～する」と「～をする」の形態を両方とも有する外來語動名詞の A タイプが、全体の半数以上を占めていることが明らかに見て取れる。次に、「～する」の形態はあるが、「～をする」の形態はない B タイプは 1/4 強を占めており、二番目に多い。そして、「～する」も「～をする」の形態も検索できない C タイプは 1/5 の数もあった。最後は、B タイプと反対に、「～する」の形態はないが、「～をする」の形態がある D タイプはほんの僅かで 2%しかないことも確認できた。このように、検索件数から外来語動名詞のサ変動詞化の状況を見ると、A > B > C > D という結果を得た。

臺大學術期刊資料庫

[17] 小林（2004:12）。
[18] 川合（1984：320）。

次は、動名詞の概念から、上述した四つのタイプについて検討する。

【A タイプ】

A タイプの外来語は、実際に「～する」と「～をする」という二つの形態用法を有するもので、即ち動詞性も名詞性もあり、言わば、正真正銘の外来語動名詞と言えよう。特に三資料ともに出現した外来語は、「マスター」の 1 例を除く 40 例全てが A タイプである。次に、二資料に出現した外来語動名詞も、この A タイプが 86% も占めている。この点から、外来語動名詞は語の定着度が高いほど、動詞性と名詞性をともに有するという傾向が捉えられよう。一種類の資料のみに見られる外来語動名詞も、この A タイプが一番多くはあるが、B と C と合わせて見ては格段と高い比率であるわけではない。その多くは、〔辞典〕にのみ出ている語であり、やや新しい語と思われるものであるが、現代社会での需要性が高く、その動詞化も求められているのではないかと考えられる。以下、A タイプにおける資料出現の状況による例を挙げよう。

三資料出現の例：「アルバイト」「オープン」「サイン」「メモ」
「スタート」「ドライブ」「マッサージ」…

二資料出現の例：「アレンジ」「ガイド」「キャッチ」「ノック」
「バイト」「ボイコット」「リレー」…

一資料出現の例：「エコー」「カンニング」「コンタクト」
「サンプリング」「トータル」「ブレーク」…

上の四の（一）で〔澤田〕にのみ出現した外来語動名詞が 45 例あり、そのうちの 40 例は〔辞典〕にも収録されてはいるものの、～する記号が付けられていないと述べたが、この 40 例は、実際にコーパス資料で検索したところ、いずれもサ変動詞化用法をもっており、A タイプと認定できる。例を挙げると、「アンケート」「ウォッチング」「カウンセリング」「コストダウン」「ストライキ」「ディスカウント」「デュエット」「ドーピング」「ネーミング」「ピクニック」「リクルート」「レンタル」など見られるが、如何にして〔辞典〕に

臺大學術期刊資料庫

は〜する記号が付けられていないだろうか。〔辞典〕の編集方針などと関わりがあるのではなかろうかとも思われるが、いま俄かには判断できない。

【B タイプ】

B タイプというのは、「〜する」形態用法はあるが、「〜をする」形態用法はない外来語動名詞のことであり、実際に名詞性用法はなく、動詞性寄りという性格のものと捉えられる。この B タイプには、一資料のみ出現の語が一番多く、87%も占めている。三資料出現の例は「マスター」の 1 語しかなく、二種類出現の語もさほど多くない。具体的な例を挙げると、

三資料出現の例：「マスター」

二資料出現の例：「エキサイト」「オーバーヒート」「ショート」
「チャーター」「プッシュ」「マネージ」…

一資料出現の例：「アジャスト」「エンジョイ」「カムバック」
「パラフレーズ」「ブックマーク」「リカバー」…

【C タイプ】

C タイプは、A タイプとは逆で、「〜する」または「〜をする」形態のサ変動詞用法の実例が現実のコーパス言語資料では見付からない語である。この点から考えると、これらを外来語動名詞と言えるかどうか、疑問に思われる。

これら C タイプの外来語動名詞は、〔澤田〕にのみ出現している一部分を除いては、殆どが〔辞典〕にだけ載っている。〔澤田〕にのみ出現した語は、「タッチオフ」「デートデザイン」「ハミングパラフレーズ」「フェードイン」「プレゼントマーク」 5 語だけであるが、現在は一般の辞書にも載っていなく、あまり用いられていないもので、日本語としての普及度が低い[19]と見られる外来語である。一方、〔辞典〕にのみ収録されている例は、「アプリシエート」「エリミネート」「クランクアップ」「テレワーク」「ピークアウト」などが挙げ

臺大學術期刊資料庫

19 「タッチオフ」などの五語はネット一般辞書 goo にも収載されていない。

られるが、これらは、やや新語っぽい例だと見られるものである。C タイプ全 125 例のうち 120 例もが、基本語彙資料（〔澤田〕・〔550 語〕）に出ていない語であり、さらに僅か 19 例を除く殆どの例が現代のネット一般辞書 goo にも収載されていない。つまり、C タイプの外来語動名詞は語彙の定着度と普及度が低いと言えよう。

前述した如く、これら C タイプの外来語動名詞は実際のサ変動詞化の用法も見付からないため、動名詞と言えるかどうかが疑問である。これらの点を考え合わせると、C タイプの外来語動名詞は、〔辞典〕に動詞用法があるとはされるものの、その語の定着度があまり高くなく、サ変動詞化の機能もあまり働かなかっただろうと推測される。

【D タイプ】

最後の D タイプは B タイプと反対で、「～をする」形態用法はあるが、「～する」形態用法はないもので、この点からして名詞性寄りの外来語動名詞だと言えよう。かなり少数で僅か 15 例（2%）しかない。次のような例である。

「エアホッケー」「スカウティング」「タイムアタック」
「ダブルワーク」「チア」「ハンドドリップ」
「ファスティング」「ベーキング」「ボクササイズ」
「チェリッシュ」「ディド」「フラストレーション」
「マニフィカト」「タッチダウン」「リメンバー」

さて、ここでは分析の仕方を変えて、三資料及び二資料に出現した外来語動名詞について、コーパス資料におけるサ変動詞化の実際の状況を検討してみる。まず、前述した如く、三資料ともに出現した外来語は「マスター」以外の 40 例全てが「～する」及び「～をする」の形態用法を両方ともつ A タイプだという点が挙げられる。また、三資料及び二資料出現の外来語動名詞全 179 語における「～する」と「～をする」形態の内訳を分析すると、「～をする」よりも「～する」形態用法の方が優勢なのは 160 語（89%）もある。一方、反対に「～する」より「～をする」形態用法の方が多いのは 13 語だ

臺大學術期刊資料庫

けで、また両者の用法例が同じぐらい[20]の語は僅か6例のみであり、この両者を併せても19語（11%）に過ぎない。要するに、三資料及び二資料に出現した外来語動名詞は全体として動詞性寄りの性格が顕著だということが明らかである。この点、外来語動名詞全体において動詞性寄りのBタイプが名詞性寄りのDタイプより断然と多いこととも軌を一にする傾向と理解できよう。[21]

五、まとめ

本稿では〔辞典〕と〔200万字〕、及び基本外来語に関する先行文献（〔澤田〕・〔550語〕）から外来語動名詞を613例収集し、BCCWJ及び『ヨミダス資料館』という二つのコーパス資料を用いて、収集した外来語動名詞にサ変動詞の形態用法があるかどうかを実際に検証してきた。考察分析の結果を、次の三点からまとめ直すことができる。

1）調査に使用した辞典と語彙資料における外来語動名詞の問題点と特徴
2）サ変動詞化の状況からみた日本語外来語動名詞の性質
3）基本語的な外来語動名詞の抽出、そして外来語動名詞のサ変動詞化と語彙の定着度及び普及度との関係

1)調査に使用した辞典と語彙資料における外来語動名詞の問題点と特徴であるが、『現代雑誌200万字言語調査語彙表』に関しては、調査の結果、当語彙表の語彙は今回参照した基本外来語の先行研究（〔澤田〕・〔550語〕）と〔辞典〕には殆ど出ていないことがわかった。これは、その語彙表から抽出した外来語動名詞の語彙は定着度が低く、一般的には使用されない語が多いことを意味する。よって、

[20] 「～する」形態と「～をする」形態の用法数は同じかまたは差が1だけの場合をさす。

[21] 因みに、四の（一）で抽出した基本語的な外来語動名詞133語は、いずれもサ変動詞化しているが、「～する」及び「～をする」の形態用法を両方ともつAタイプが大多数で123語あり、「～する」形態用法だけを有するのは10語ある。つまり、この基本語的な外来語動名詞でも動詞性寄りの性格がやや優勢なのである。

臺大電機圖書館授權

この〔200 万字〕という資料は、外来語動名詞の分析考察の対象としてはあまり適切ではないと考えられる。

先行研究の〔澤田〕と〔550 語〕の二つの語彙資料に関して見ると、普及度が低い少数の語を除いては、三十年前から現在に至るまで用いられてきている基本的な語彙と考えられる外来語動名詞が多数であることが検証できた。

〔辞典〕の場合、二つの問題点が明らかになった。一つ目として、見出し語に〜する記号が付けられていないものの中には、実際にサ変動詞化した外来語動名詞が結構あるということが、今度の調査を通してわかった。〔辞典〕が、なぜこれらの語の動詞用法を認めていないかについては、俄かには判断しえない。今後様々な方面からの検証が待たれよう。二つ目の問題点は一つ目とは逆に、〔辞典〕の見出し語に〜する記号がつけてはあるが、コーパス調査を通してサ変動詞化した外来語動名詞の実例を検索できなかったケースである。この二つの問題点から、『コンサイスカタカナ語辞典　第 5 版』は〜する記号の付与基準に問題があったのではないかと思われる[22]。

2)サ変動詞化の状況からみた日本語外来語動名詞の性質を考察した結果、半数以上は正真正銘の動名詞、即ち動詞性と名詞性とをともに有していることを確認できた。ほかに、「〜をする」形態用法だけを有する名詞性寄りの語よりも、「〜する」形態用法だけを有する動詞性寄りの外来語動名詞の方が多いことも明らかにできた。動名詞と思われる外来語に動詞としての需要の高さがあったことが見て取れる。この外来語動名詞の動詞性寄りの性質は、本稿で抽出した基本語的な外来語動名詞の場合が特に顕著であることも確認できた。なお、今回収集した外来語動名詞の中にサ変動詞化の実例が見付からない語が 1/5 もあったが、サ変化の実例もないのに、なぜ外来語

[22] 辞書の凡例には〜する記号は、「その語が日本語の中で「する」をつけて動詞として使われることを示した」と説明されているのみであり、判断基準は特には述べられていない。

書誌学術期刊資料庫

動名詞と判断されたのかについても、今後さらに検討すべきであろう。

それから、3）基本語的な外来語動名詞の抽出、そして外来語動名詞のサ変動詞化と語彙の定着度及び普及度との関係について考えてみる。まず、今回 BCCWJ での使用度の調査を通して、三資料及び二資料出現、そして一資料出現のみの外来語動名詞の中から、使用度 50 以上の 133 語をさらに抽出し、基本語的な外来語動名詞と判断した。この基本語的な外来語動名詞は定着度も普及度も高く、また「～する」と「～をする」という二つの形態用法をともに有するのが 9 割近くもあり、殆どサ変動詞化している。

次に、外来語動名詞のサ変動詞化と語彙の定着度及び普及度との関係について考察した結果、三資料及び二資料出現の基本語的な外来語動名詞は殆どサ変動詞用法をもっているが、一方、「～する」と「～をする」という二つの形態用法を両方とももたない C タイプの場合は、語彙の定着度と普及度が低いものが多く[23]、サ変動詞化の実例も少ないのである。この二点の言語現象から、外来語動名詞は、語彙の定着度と普及度が高いほど、サ変動詞化の可能性も高いことが新たに明らかになったと言えよう。

因みに、〔辞典〕一資料にだけ収録されている外来語動名詞における語の定着度及び普及度とサ変動詞化の関係について、現代のネット一般辞書 goo の収録状況と併せて検証してみた結果を表四に示す。

[23] C タイプ全 125 例のうち 104 例も基本語彙資料（〔澤田〕・〔550 語〕）には出ていない語であり、またネット一般辞書 goo に収載されているのも僅か 16 例のみである。つまり、C タイプの外来語動名詞は語彙の定着度と普及度が低いと言える。

臺大學術典藏資料庫

表四　〔辞典〕一資料のみ出現の外来語動名詞における
サ変動詞化と辞書登録状況

サ変動詞化の分類	gooの登録有無	
	○	×
A	103	35
B・D	59	61
C	17	87

サ変動詞化四分類それぞれにおける goo の登録状況を見ると、A、B、D という三つのタイプは即ちサ変動詞化する外来語動名詞であるが、その、登録されていない語（96 例）より登録されている語（162 例）が多いのに対し、一方、サ変動詞化しない C タイプでは逆に登録されている語（17 例）より登録されていない語（87 例）が断然多いという結果を得た[24]。つまり、〔辞典〕一資料出現の外来語動名詞においても、サ変動詞化した語は、ネット一般辞書 goo に見出し語として出ている比率が高いのに対し、サ変動詞化していない語の場合はネット一般辞書 goo に見出し語として登録されていない場合が多いのである。この〔辞典〕一資料出現の外来語動名詞からも、語彙の定着度及び普及度とサ変動詞化との関係が裏付けられよう。

六．おわりに

本稿では、辞典や語彙資料における外来語動名詞の調査を行った。まずは、調査に使用した語彙資料の特徴や外来語辞典の問題点などを批判的に検討した後、基本語的な外来語動名詞を 133 語抽出したが、これらは、いずれもサ変動詞化でき、普及度もある程度高い語という基準を満たした、実用性の高い語だと見られよう。これら基本語的な外来語動名詞は、日本語教育の教材編集などに当たり、現

[24] 〔辞典〕一資料だけ出現の外来語動名詞のサ変動詞化と goo 辞書の登録有無との関係について、js-STAR の 2X2 表（Fisher's exact test）を用いて検定を行った結果、両側検定で p<.01 となり、有意であると示されている。つまり、〔辞典〕一資料だけ出現の外来語動名詞においても、統計分析を通しての検証からもその語彙の定着度及び普及度とサ変動詞化と関連していると言える。

在の時代のニーズに対応する外来語動名詞の語彙選定の参考にでもなる、と日本語教育への応用ができるだろうと考える。

これらの外来語動名詞は、全体的には「～する」形態用法の方が「～をする」形態用法よりも多く、動詞性寄りの性質が顕著だと見受けられた。なお、半数以上は正真正銘の動名詞、即ち「～をする」と「～する」という二つの形態用法を両方有するものであることも確認できた。そして、外来語動名詞のサ変動詞化と語彙の定着度及び普及度との関係も詳しく検討した。

外来語は、元外国原語の意味に動詞の用法がある場合は、日本語に取り入れられる際にも動詞用法を帯びるようになると、澤田（1993）の仮説、村木（1982）、ビタン（2015）などにも指摘されている。しかし、実際は、外国原語を取り入れた後、受容されるまでには時間がかかり、受容度が高くなるにつれ、日本語化の度合いも高くなり、その後外来語語彙の定着度も普及度も高くなるのである。このような過程を経た後、和語・漢語の如く、外来語にも「する」をつけたサ変動詞用法が生じるようになると考えられる。要するに、外来語は、元外国原語に動詞用法があるかどうかよりは、外来語の日本語化の度合い、即ち語彙の定着度と普及度がサ変動詞化に強く影響することが本稿の考察によって新たに分かった。

外来語サ変動詞というのは、外来語の名詞形に和語のサ変動詞「する」がつくものなのであるが、言わば、外来語動詞化には日本語本来の語形活用の操作が必要なのであり、その日本語本来の語形活用操作ができるというのは、その外来語が既に日本語化した根拠になるのである。要するに、語彙の定着度と普及度が高く、即ち、日本語化した度合いが高いほど、サ変動詞化しやすいわけであろう。

外来語サ変動詞には、例えば、漢語サ変動詞のように「～する」と「～をする」の構文的な違いに外項の有無が関わるかどうかといった問題などが残るが、これらも含めて今後の課題としたい。

臺大學術期刊資料庫

【参考文献】

ビタン・マダリナ（2015）「昨日形態素-ing を含んだ外来語の形態・用法の特徴—「～する」動詞化の可否をめぐって—」『筑波日本語研究』第二十号、つくば市:人文社会科学研究科日本語学研究室、pp.50-74

井上道雄（2004）「カタカナ語（外来語）基本語彙 550 語—その語彙特性と選定基準—」『神戸山手大学紀要』6 号、神戸市:神戸山手大学、pp.65-79

川合淳介（1984）「洋語外来語動詞について」『岡山大学教養部紀要』20 号、岡山市:岡山大学、pp.311-328

小林英樹（2004）『現代日本語の漢語動名詞の研究』、東京:ひつじ書房

松井利彦（1982）「漢語・外来語の性格と特色」『講座日本語の語彙第 2 巻　日本語の語彙の特色』、東京:明治書院、pp.149-177

南亜希子（2020）「外来語サ変動詞における日本語母語話者の許容状況—I-JAS に基づく例文を用いた調査から—」『言語資源活用ワークショップ発表論文集』5、東京:国立国語研究所、pp.2-11

宮地　裕（1977）「現代洋語の構成」『国語国文』46-5、京都:京都大学、pp.370-380

村木新次郎（1982）「外来語と機能動詞—「クレームをつける」「プレッシャーをかける」などの表現をめぐって—」『武蔵野大学人文学会雑誌』十三—四,東京:武蔵大学、pp.1-16

澤田田津子（1993）「日本語教育のための基本外来語について」『奈良教育大学紀要　人文・社会科学』42 巻 1 号、奈良市:奈良教育大学、pp.225-239

【辞書と電子資料】

『コンサイスカタカナ語辞典　第 5 版』三省堂（2020）

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（BCCWJ）日本国語国立研究所

臺大學術期刊資料庫

『現代雑誌 200 万字言語調査語彙表』国立国語研究所　（公開版（ver.1.0）　2006.8.11）
『ヨミダス歴史館』（読売新聞オンラインデータベース）

臺大學術期刊資料庫

付表 (BCCWJでの)使用度50以上の基本語的な外来語動名詞133語

三資料及び二資料出現の語				一資料出現の語	
外来語動名詞	使用度	外来語動名詞	使用度	外来語動名詞	使用度
アップ	3284	ターン	205	インストール	1170
チェック	2919	スライス	203	セックス	635
スタート	1746	トレーニング	195	エッチ	575
キス	1176	トライ	190	キャンセル	498
カット	1021	オーダー	186	ゲット	440
コピー	984	ロック	185	リンク	396
コントロール	967	ドライブ	178	アプローチ	222
イメージ	951	オーバー	164	オーケー	190
プレー	867	フィット	160	ミックス	172
セット	824	ウインク	151	レンタル	160
プレゼント	793	ブレンド	139	リフレッシュ	159
アピール	776	リクエスト	139	ピックアップ	159
カバー	770	カーブ	137	チェンジ	150
サポート	698	スライド	132	ブレーク	141
クリア	690	スケッチ	131	スルー	136
オープン	687	スリップ	131	エントリー	134
リラックス	670	パンク	127	プロデュース	108
チャレンジ	645	スキャン	125	リフォーム	108
ヒット	590	ゴール	124	フィードバック	107
デビュー	563	ダンス	114	インプット	97
リード	563	プロポーズ	111	フォーマット	94
アドバイス	495	スカウト	106	セレクト	82
コメント	440	モニター	104	バック	79
プラス	438	ガード	102	カール	72
ノック	401	クロス	99	エンジョイ	71
サイン	389	アタック	96	スピーチ	70
ダウン	386	スイング	94	パトロール	68
マッサージ	381	ストック	94	チューニング	65
アレンジ	373	セーブ	92	リメーク	60
メモ	348	キャンプ	91	ブラッシング	59
マスター	343	スクロール	91	ショッピング	58
サービス	339	シャンプー	87	カウンセリング	50
マーク	337	レコーディング	87	ノミネート	50
マッチ	330	ネット	86		
バイト	317	プッシュ	81		
ストップ	314	タイプ	76		
テスト	305	ドッキング	75		
ゲーム	294	ランク	69		
キープ	286	プログラム	68		
バックアップ	274	エスコート	61		
アルバイト	273	コミット	60		
キャッチ	270	シュート	58		
シフト	267	チャーター	58		
プリント	258	ボイコット	56		
エスカレート	258	クリーニング	56		
ダイエット	243	シャットアウト	56		
フォロー	233	ショート	56		
ミス	221	キック	54		
インタビュー	216	プール	54		
カウント	206	アナウンス	50		

臺大學術期刊資料庫